

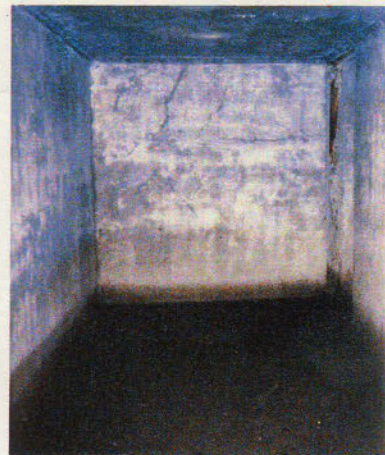
戦争遺跡 防空壕



- ・遺跡名 防空壕
- ・年代 昭和16年頃
- ・概要 艦載機の攻撃に備えての避難場所。入口は5箇所あり、中で繋がっている。
高さ2M*幅1.5M*奥行15.0M



- ・遺跡名 横穴防空壕
- ・年代 昭和19年頃
- ・概要 爆弾に耐えるよう横穴に掘ってある。高さ1.6M*幅1.5M*奥行3.5M

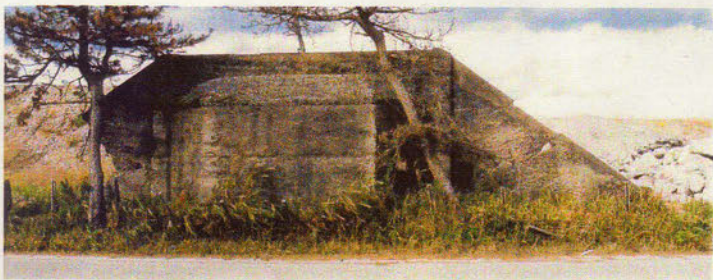


- ・遺跡名 防空壕
- ・年代 昭和19年
- ・概要 高さ2M*幅2M*奥行5M
の頑丈なコンクリート製

戦争遺跡 監視所・弾薬庫施設



- ・遺跡名 明野陸軍飛行学校敷地外にある「監視所」施設
- ・所在地 度会郡小俣町元町
- ・年代 昭和16年頃
- ・概要 明野陸軍飛行学校内に情報提供する施設の遺跡
 - ・陸軍気象部明野観測所班・明野陸軍飛行学校通信班、情報収集班等の施設で重要な「監視所」の役割をしていた建物で、現在も上部に約2Mの土盛りと雑草に覆われている、非常に頑丈なコンクリート製である。当時は、その周囲に土手が築かれ遠くからは、その存在に気が付かなかった。



- ・遺跡名 明野陸軍飛行学校敷地外にある「監視所」施設
- ・所在地 伊勢市東大淀町伊勢市立北浜中学校付近
- ・年代 昭和18年頃
- ・概要 戦闘訓練を目的とした明野陸軍飛行学校のかつての敷地内に設置された機銃掃射と爆弾投下の的中を観測する建物として設置されたコンクリート製の頑丈な施設。北浜中学校付近に2ヶ所残っている。
(約10M*約3M*約H6M)

- ・遺跡名 宇治山田防空隊の弾薬庫施設
- ・所在地 伊勢市中村町
- ・年代 昭和20年頃
- ・概要 高射砲のコンクリート製弾薬庫(約3.5M*約2M*約H1.5M)伊勢神宮を防衛する独立高射砲第5大隊の関連施設。

戦争遺跡 弾痕跡



- 遺跡名 寒松院の被爆墓石
- 所在地 津市寿町
- 年代 昭和20年7月24日10時頃
- 概要 昭和20年7月24日、藤堂家4代高陸の墓石。爆撃による弾痕で、同様の弾痕のある墓石（藤堂家）が26基並んでいる。



- 遺跡名 津海軍工廠西門の弾痕跡
- 所在地 津市高茶屋小森山
- 年代 昭和20年6月26日空襲時
- 概要 昭和20年6月26日被弾。現在工廠跡は西門柱1本のみ残っている。

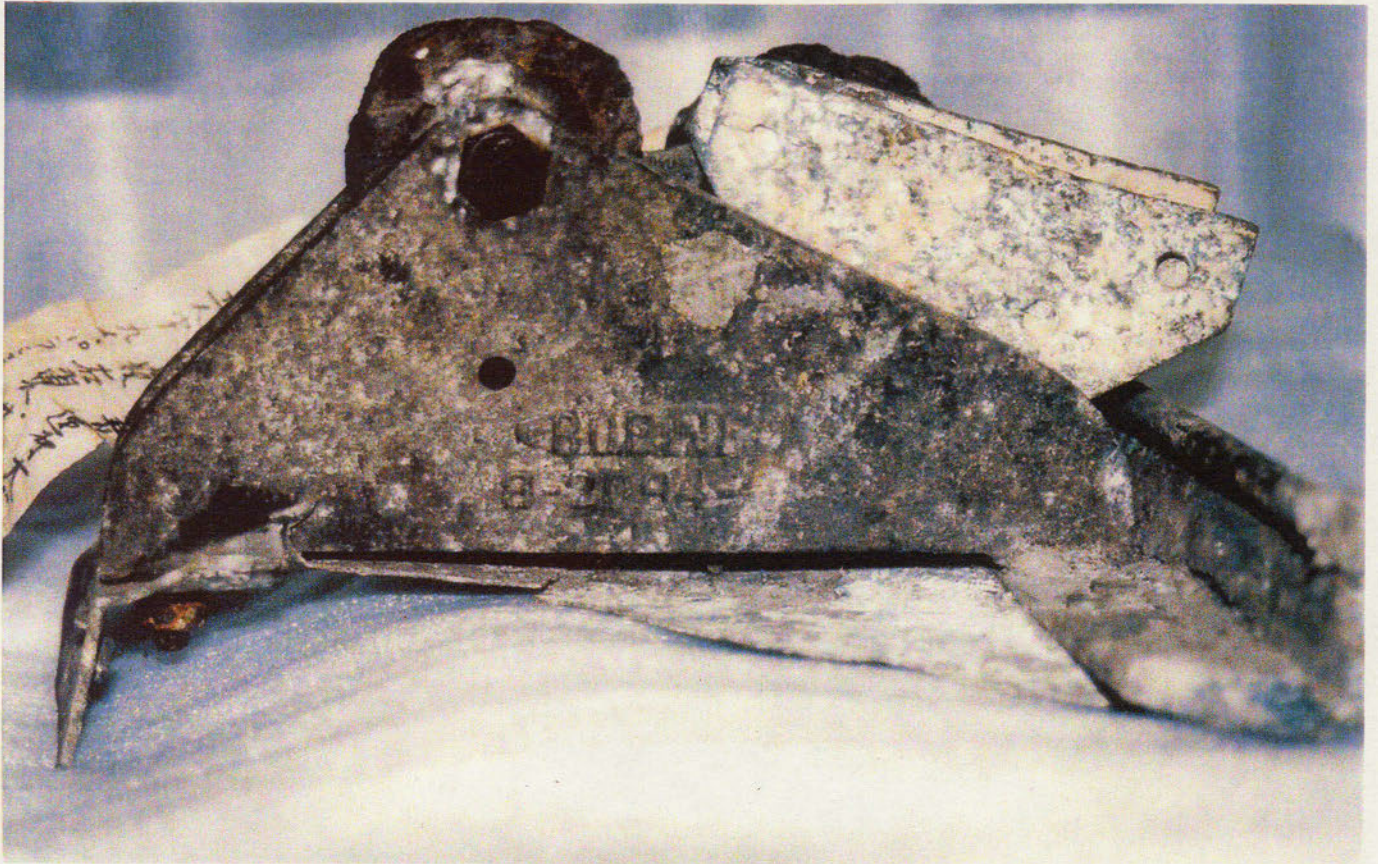


- 遺跡名 グラマン戦闘機による弾痕
- 所在地 近鉄赤目駅構内
- 年代 昭和20年7月24日朝
- 概要 昭和20年7月24日、出征兵士を見送りに来た人達を、機銃掃射した時のホームの弾痕。



- 遺跡名 塔世橋・被爆の欄干
- 所在地 津市栄町・国道23号線塔世橋・市町村会館前
- 年代 昭和20年7月24日10時頃
- 概要 昭和20年7月24日被弾。1993年架け替え工事の際、弾痕のある欄干を保存する市民運動が起こり、要望取り入れ戦災遺跡として残された。

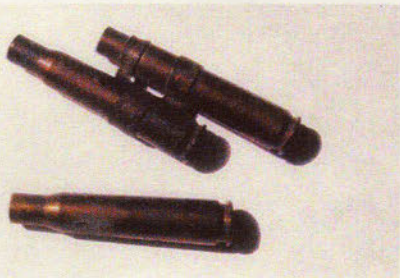
戦争遺跡 弾・薬きょう・破片等



- ・遺跡名 B29爆撃機の破片
- ・年代 昭和20年6月5日
- ・概要 昭和20年6月5日、日本の戦闘機に撃墜されたB29爆撃機の破片。その時即回収されたが、後日発見された物。



- ・遺跡名 三八式歩兵銃と布兜
- ・年代 昭和19年頃
- ・概要 昭和19年頃使用されたもの



- ・遺跡名 米軍機の薬莢
- ・年代 昭和20年7月28日
- ・概要 昭和20年7月28日、海軍熊野灘部隊が尾鷲湾防衛中に被弾し、死傷者多数を出した時の薬莢。



- ・遺跡名 軍隊で使用した防毒マスク
- ・年代 昭和20年頃
- ・概要 軍隊に入隊時、支給されたもの。